

Asian Diversity No.13 by ASNET

ASNET活動紹介 2011年度夏学期総合科目 「日本・アジア学概論」

東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET)では大学院生向け研究科横断型教育プログラム「日本・アジア学」を開講しています。この学際的教育を学部生向けにも行ってみよう、という初めての試みが、2011年度夏学期総合科目(国際・地域一般)「日本・アジア学概論:国際社会で活躍する基盤を身に付ける」の開講という形で実現しました。

開講の目的は、大学に入学したばかりの若い学生達に、アジアに存在する様々な問題—工業化による環境汚染、国際公共事業をめぐる争議、交通渋滞と都市開発、資源開発と環境保全—について、自ら主体となって考える機会を提供する、ということでした。

まず、「日本・アジア学」を学ぶ意義について概括的な講義が行われた後、タイ、インドネシア、ベトナム、中国の4カ国に分け、各国3回ずつ授業が行われました。各国の授業では、理系の教員によるケース・メソッド方式の授業を通じて、アジアの社会が抱える様々な問題を考察した後、「なぜ、そのような問題が発生するのか?」という学生達の関心を、文系の教員がその国の歴史、社会、文化的背景から解き明かしていきました。

受講にあたっては、事前に課題文の予習が義務付けられるなど、受講生にとっては少々ハードだったかもしれません。しかし約20名の受講生達は、毎回しっかり予習をこなし、積極的にグループ・ディスカッションとプレゼンテーションに参加していました。アジアに存在する様々な問題について多角的に学び、その中から将来の専攻を発見するための、貴重な機会となったことでしょう。本講義は来年度も開講します。やる気あふれる、多くの学生さんの受講をお待ちしています。



丸川知雄教授(社会科学研究所)による最終講義
「中国天津の工業発展史」の様子(2011年7月12日)

文・写真:安田佳代

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET機構)は、アジアのことを広く、深く知りたい学生の皆さんに研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムも実施しています。詳しくは下記のURLをご確認下さい。:

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

ASNET機構

検索

Relay Column

ワタシのオシゴト / 第69回

Rings around the UT

本部渉外・基金課

谷本 知嘉子さん

寄附者と東大の架け橋となるために



杉山副理事の席をお借りして撮影しました!

主に、東京大学基金の獲得に関する業務を行っています。同期や学内の知人には、「いわゆる営業みたいなことをやっているのか?」と聞かれることがあります。実際のところ、初対面の方に名刺を出して、「東京大学基金への寄附をお願いします」と言いますが、基本的に相手は、東大で青春を過ごし、社会で活躍されている卒業生なので、母校の現状を知りたいという方や、ご自身の大学時代の思い出をお話される方も多く、清々しい気分になったりほっこりすることもよくあります。

こういった時勢の中、寄附をして下さる方々は、「東京大学の教育・研究の発展と共に、日本がより良くなって欲しい」という信念を持っていらっしゃる方が多いので、寄附者の想いが東大の発展に寄与できるよう、架け橋となることが少しでもできればと思う毎日です。



3歳の息子と同世代の子を持つパパや先輩ママも多く、理解ある有難き渉外本部の方々と

得意ワザ:蚊が自分の皮膚を刺す瞬間がわかる
(最近体得した)

自分の性格:思慮深さに欠ける、
よく言えば、素直ということ。

次回執筆者のご指名:丹羽悠二さん

次回執筆者との関係:研修で知り合い、
業務の情報交換をしています。

次回執筆者の紹介:東大の森への情熱と
お子様への愛情が半端ない人。